

いーぶん

● 素敵なパートナーになるために ●

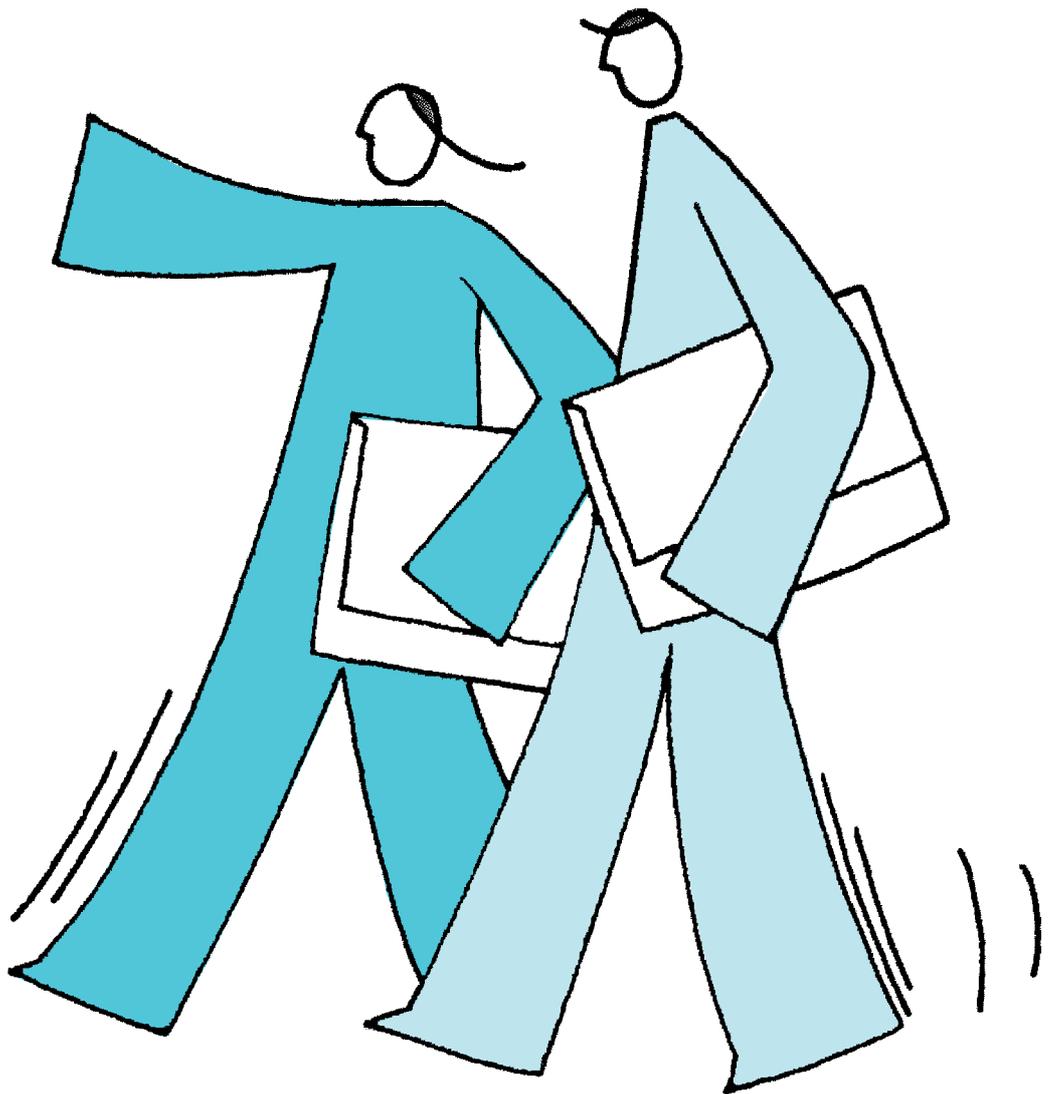
特集

第4号

平成14(2002)年9月

職場におけるジェンダー

ジェンダーとは、「女らしさ」「男らしさ」といった社会的・文化的につくられた合理的根拠のない性別のことです。



特集

職場における ジェンダーチェック

はい(Yes)と思う項目に✓を入れてください。

1. 女性の大工さん、男性の保育士さんには違和感がある。
2. 男性なら、いい仕事をするには、家庭を忘れるくらいやるべき。
3. 女性にのみ制服着用義務があっても不思議ではない。
4. 子どもの学校行事のために、男性は休暇をとるべきではない。
5. 女性は、男性よりもおいしくお茶をいれることができる。
6. 男性が育児休業を取ることは恥ずかしい。
7. 責任者や長のつく役は、男性のほうが女性よりも適している。
8. 「三歳児神話」は絶対。女性が仕事と出産・育児を両立するのは無理。
9. 力仕事は男性にまかせたほうがいい。
10. 結婚したら、男性は家族を養うと決まっている。
11. 商談をうまくまとめるために、女性社員を同伴するのは効果的。
12. 男性社員が女性社員を「ちゃん」付けで呼ぶのに違和感はない。
13. 片付けや資料整理などの雑用は女性がするべき。
14. 宴会で上司のとなりに女性が座ってお酌をする習慣を変えない。



あなたの

Yesの

数は?

【7以上】 ➡ 無意識に「男だから」「女だから」と思っていませんか？
レッドカード このままでは職場から「退場！」かも...

【1～6】 ➡ まだまだ世間体や固定観念に縛られていませんか？
イエローカード 肩の力を抜いて、固定的な考え方を見直してみましょう。

【なし!】 ➡ 性別にこだわらず、いきいきとしていますね！
ファインプレー 自分らしさを大事にする生活を周囲にも広げてください。

チェックの中で・・・

3. ... 一宮市役所においても平成14年4月から制服廃止になりました。(移行期間のため制服着用も平成15年3月まで可)
6. ... 平成4年4月に施行された育児休業制度では、男女ともに、子どもが満1歳に達するまでの養育期間、仕事を休み、復職することを申し出ることができます。(勤め先によって満3歳まで可能のところもあります。)
8. ... 「三歳児神話」とは「乳幼児期、とりわけ三歳までは母親が育児に専念すべき」という考え方です。乳幼児期の大切さは否定できませんが、子どもを愛おしく思い、責任感に裏づけられた愛情を注ぐのは母親だけではありません。父親やそれ以外の人々も、こうした愛情をもてるのではないのでしょうか。

職場で、聞いてみました。



ひと 男女の声



男女雇用機会均等法などにより、女性も総合職に就き、相応の地位を得られ易くなったと思います。しかし、その反面、結婚をしない女性や育児をお金で人に任せる女性が増え、少子化や少年犯罪増加の原因になっているのでは？と世間では言われてしまいます。そこで女性が仕事をやめざるを得ないのは男女差だと思います。

〈40代・女性〉



女性も深夜勤務があり(ファーストフード店員)、初任給も同じで男女差は感じません。

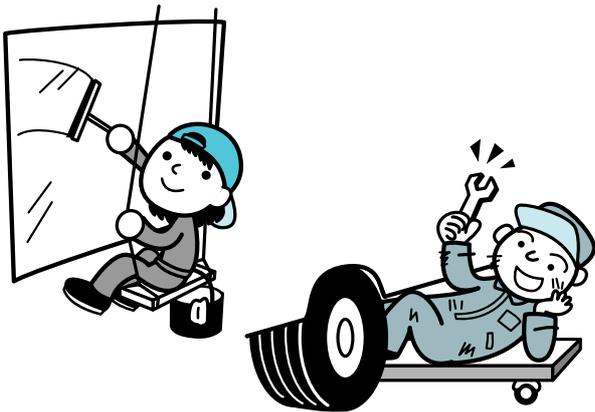
〈20代・男性〉

男女差はあまり感じません。むしろ女性の方が職業柄むいていると思います(デパート呉服販売)。女性の店長も多くなりました。

〈30代・男性〉

男性が8割の職場です。男性の家事・育児・介護への参加は、依然女性に比べて極端に低いと思います。仕事が終わっても男性は「一杯飲もうか」、女性は「急いで家路に」と、つい男性との差を感じてしまいます。自分も男性であれば…と思うことがよくあります。

〈40代・女性〉



重い荷物を直接持たない仕事(リフト操作パート勤務)で、あまり男女差は感じませんが、同じ仕事をしていても、パートの女性というだけで低い賃金です。

〈30代・女性〉

男女差はないと思います。「夜勤はどちらでもいい」と言われました(タクシー運転手)。私は家庭があるのでやっていません。

〈60代・女性〉

花屋で働いていますが、仕入れの重要な情報は圧倒的に多く男性へ集まります。後片付けは女性の仕事とされています。

〈20代・女性〉

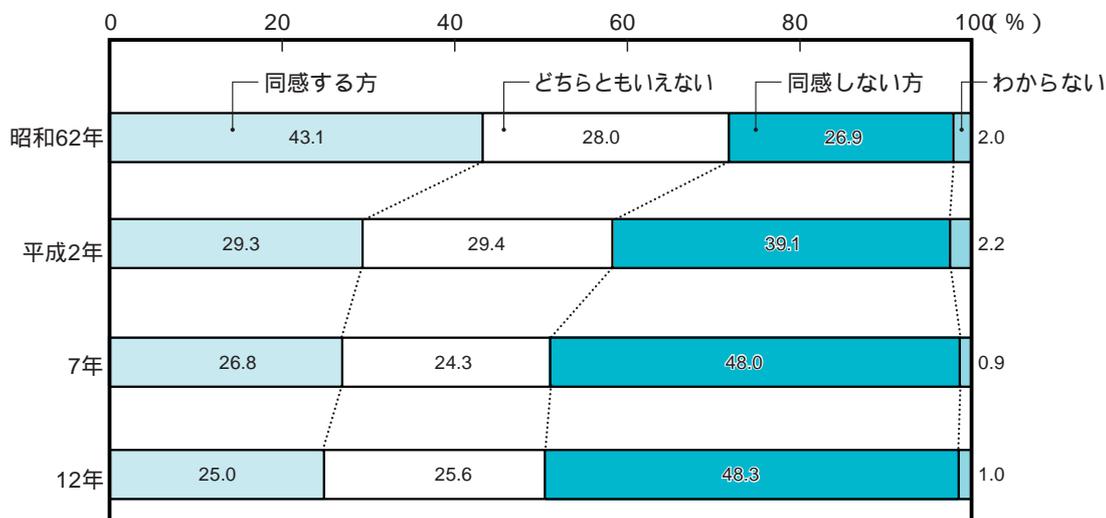


女性は男性に比べて、とても得していると思います。仕事が分からないのは「育児休暇をとっていたから」、お茶やコピーを頼めば不満顔なので総合職を勤めると「いやです」。全員とは言いませんが、女性は会社の制度に甘えすぎではないでしょうか。会社に制度があったとしても、男性は育児休暇など実際とれません。

〈40代・男性〉

あなたはどう思いますか？

「男は仕事、女は家庭」という考え方について

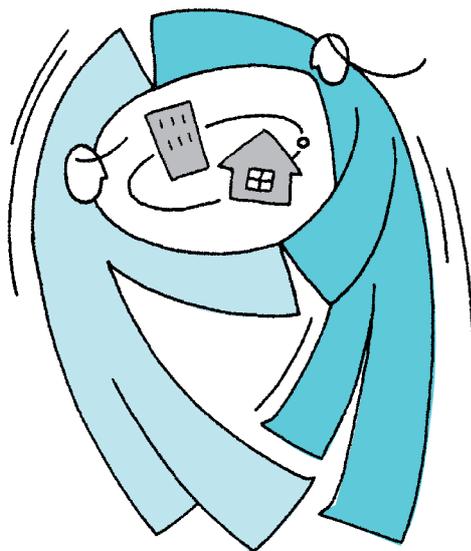


資料出所：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査（平成12年）」

上の表は、『あなたは「男は仕事、女は家庭」という考え方について、同感する方ですか、同感しない方ですか。』という質問に対する回答です。この世論調査では、昭和62年には「男は仕事、女は家庭」という考え方を肯定的にとらえた人が4割以上いましたが、平成12年には逆に同感しない人が2人に1人という結果になっています。

長い歴史の中で、性別の役割分担は作られてきました。しかし、これからは一人ひとりが個性をいかせる男女共同参画社会を目指していきましょう。

対等なパートナーとして女性と男性、お互いに「仕事も家庭も」考えてみませんか。



編集後記

『いーぶん』第4号をお届けします。

発行にあたり、ご協力いただいた皆様方に厚くお礼申し上げます。

なお今回から、企画部企画政策課が編集・発行を担当します。

『いーぶん』に対する、ご意見・ご希望を下記までお寄せください。

編集協力者 / 岡西 よし子、横井 秀子、吉田 和江、伊藤 孝司

編集・発行 / 一宮市企画部企画政策課

〒491 - 8501 一宮市本町2 - 5 - 6

TEL 0586 - 73 - 9111(内線 2113) FAX 0586 - 73 - 8034

eメールアドレス kikakuseisaku@city.ichinomiya.aichi.jp

